

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100690
法人名	株式会社 ぶどうの木
事業所名	グループホーム ぶどうの木
所在地	鹿児島市中山町5286番地 (電話) 099-821-1011
自己評価作成日	平成30年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが季節を感じて暮らせるよう、季節の草花や野菜を常に植え、元気な入居者さまは水やりを一緒にされたり、野菜の収穫を楽しまれています。季節ごとの行事も計画し、外出の機会も取り入れて、日々の生活にも意欲を持ちながら、穏やかな生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは、市街地より少し離れた閑静な住宅地に設置されている。開設以来、地域との交流を積極的に取り組んできており、町内会に加入して総会に出席し地域行事にも参加している。また、利用者は日頃の散歩や外出時に地域の人々と挨拶や会話を交わし、ホームのイベントには家族や地域の人々の来訪があり、ボランティアも受け入れている。ホームの総合防災訓練には10人前後の近隣住民の参加が得られるなど円滑な交流が図られている。

○ 管理者及び職員は、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向を把握し、理念に沿って笑顔に満ちた有意義な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者が平穩に生きがいのある暮らしとなるように、清掃や環境の整備に努め、レクリエーション等は無理強いしないで、利用者の意向を尊重した個別支援に取り組んでいる。また、訪問マッサージやハンドセラピーの取り組みは利用者の楽しみとなっており、併せて協力医療機関との連携も密に図られて、日常的な健康管理や24時間医療連携の体制が構築されて、利用者や家族の信頼と安心感に繋がっている。

○ 管理者は、日頃から業務に対する意見や要望、また、職員の個人的事情等を把握して、業務の改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図るための研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、外部研修の受講や勤務シフトには可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム内の数か所に理念を掲示し、いつでも理念を確認し、理念に沿った行動をとれるようにしている。	ホームの理念を、目に付きやすいフロア等に掲示し、朝の申し送り時の唱和や内部研修で意義の共有を図っている。申し送りや日頃のケアの中、ミーティング等で、ケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援の実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、消防訓練など事業所の行事に参加していただく一方、事業所の行事案内を町内会にお願いし、地域の方も行事に参加されている。	町内会に加入し、利用者が地域と関わりながら生活できるように、総会の出席や回覧板で地域の情報を把握し行事等に参加している。ホームのイベントや防災訓練には、家族や地域の人々の参加が得られている。また、日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人々との挨拶や会話を楽しみ、家族や友人の来訪やボランティア等を積極的に受け入れるなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	積極的に地域に開いた取り組みは行っていないが、地域の方々からの相談があれば応じられる態勢を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの意見、特に入居者の生活に関する意見、質問が多く、議事録を各職員に開示し、サービスにつなげている。	会議は家族代表、民生委員、町内会長、市長寿あんしん支援センター職員等が参加して定期的開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは利用者のケアや地域の高齢者に関する意見や情報、防災に関する意見等が活発に出されている。職員は議事録で共有を図り、内容を検討してサービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者に実情を交えて相談することで連携を図り、意見交換することでサービスの向上につなげている。	包括支援センター職員には、運営推進会議に出席してもらいホームの状況の理解を得ている。市介護保険担当者及び生活保護ケースワーカーとは、介護保険更新や各種報告書の提出、ホームの運営やケアに関わる協議等を日頃行って、助言・指導を頂くなど協力関係を築いている。市や社会福祉協議会主催の会合や研修会等に積極的に出席して情報や意見の交換に努め、サービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回の頻度で身体拘束についての研修を実施し、身体拘束について理解を深め、実践している。玄関の施錠は入居者の状況を見て一時的なものとしている。	身体拘束や権利擁護に関する研修を年4回計画的に実施して共通の認識を図っている。利用者の尊厳やプライバシーを大切にしたい言葉づかいやケアの実践に日々努めており、不適切なケアに対しては、申し送り時やその場で注意し合い、また、ミーティング等で意見交換して改善に取り組んでいる。玄関等の施錠は行なわず、対話や散歩等で安定を図るなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に2, 3回の頻度で虐待防止についての研修を実施し、虐待について理解を深め、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修にて権利擁護に関する制度について学んでいる。入居者に必要があると考えられたら、管理者はご家族に日常生活自立支援事業や成年後見制度のご利用をすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、ご家族、ご本人にホームに赴いていただき、職員が書類を説明しながら契約を結んでいる。改定の際は改定箇所を説明した書類を交付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に「ご意見箱」を設置している。また、ご家族、入居者から直接意見を頂くこともあり、申し送りノートに内容を記入することで、各職員で内容を共有している。	利用者の要望等を日々の会話や表情、仕草、独自のサイン等から汲み取るように努めている。家族の来訪時には、利用者の近況を伝え、意見等を貰うように取り組んでおり、運営推進会議、ケアプラン見直し時、意見箱でも要望等を把握し、全員で対応を検討してサービスの改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングなどで各職員、管理者で意見を交換し、運営に反映させている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、業務の中や申し送り、ミーティング、個人面談等で業務に関する意見や要望、個人的な悩み等を把握し、業務改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトや外部研修の出席は可能な限り職員の希望を反映させ、資格取得に対してもバックアップする等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の状況に合わせて勤務体系、休日を設定し、働きやすい環境を整えている。外部研修や資格取得の機会を設け、技術や意識の向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は各職員の力量を把握し、外部研修や資格取得の機会を設けている。施設内での研修も毎月行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修などで他施設と情報交換する機会を設け、サービスの質の向上につなげている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前にホームの見学をおすすめし、職員との顔合わせがてら、入居に際しての不安なこと、要望などをうかがっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用前にご本人とともにホームの見学をお勧めし、職員との顔合わせがてら、入居に際しての不安なこと、要望などをうかがっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していた居宅介護支援事業所や入所施設などから情報をいただき、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができることを見極め、洗濯や食前の台拭きなどの手伝いをお願いし、生活の場であるという意識付けをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の面談にてご家族の意向を尋ね、職員や施設の意向が優先されないよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の馴染みの場所に出かける計画を立て、馴染みの人との面会も歓迎している。	入所前の環境や生活状況等をアセスメントで把握し、利用者の馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って散歩や買い物、外食、一時帰宅、法事への参加等を家族と協力して支援している。遠方の家族にも情報紙「ぶどうの木だより」等で利用者の状況を伝えるなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席の配置を考慮し、気の合う方で話などが弾むように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの生活状況をまとめ、転居先での新生活につながるよう支援している。相談事なども退去後も受け付けていることを入居者や家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの際には本人の意向を聴き取るよう心掛け、それ以外のときに意向を聴き取れたときには記録に残すよう心掛けている。	利用者の思いや意向を日頃の支援の中で把握に努め、申し送りやミーティング等で共有して、利用者主体の最善のケアに取り組んでいる。その人らしい生きがいのある生活が過ごせるように、外出や趣味（ぬり絵、読書、パズルなど）、余暇時間の過ごし方は、利用者の習慣や希望に添って個別の支援にも努めており、成果には努力や出来栄を評価しており、利用者の励みとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人の生活歴について本人や家族に尋ねるよう心掛け、入居後も生活歴など聴き取れたときは記録に残すよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジャーを中心に状態把握に心掛け、申し送りを通して、各職員が把握できるよう体制を整えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の都度、家族や本人を交えて会議を開くことを心掛けている。ケアプランが現状に合わなくなったら、改めてケアプランを作成するようにしている。	主治医の意見、助言等を把握し、モニタリングやミーティング時の意見等を基に、本人及び家族も参加した会議を開催して具体的で解りやすい介護計画を作成している。ケアの状況は「業務日誌」や「健康管理日誌」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え、状態の変化時には計画の修正等を行って実状に即した支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は勤務中に一度は個別記録や申し送りノートを見るように心掛け、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気分転換や受診のための外出など、ニーズに対応して、柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員、消防署などと連携を図り、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望による個々のかかりつけ医と連携をとり、定期的に往診もしくは診察を受けている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。定期的な通院や訪問診療が実施され、専門医の受診は家族と協力して同行するなど、密に連携を図っている。ハンドセラピーやマッサージを取り組むなど日常的に健康管理が徹底され、病状の変化時の対応や24時間連携体制も構築されて、利用者、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきは所定の申し送りの用紙に記入し、月2回の訪問診療の際に看護師、医師に伝えられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が時間をみつけて病院に様子伺いに出かけ、担当の職員と話をし、情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医を交え、現状と予後について解説いただきながら、ご家族と話し合う機会を設けている。</p>	<p>重度化や終末期の対応指針を整備しており、入所時や必要に応じて本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを実施して、可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまで多くの看取りも実施している。看取りに関する研修も行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応はマニュアル化して職員共有事項としている。応急手当や初期対応の訓練は毎月行われる施設内研修の場を使って定期的に行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行い、うち1回は町内会の協力、参加を得て実施している。</p>	<p>夜間も含む火災や風水害等を想定した総合訓練を年2回、消防署や町内会の協力を得て実施し、その都度、結果を評価して改善に努めている。日頃のケアの中やミーティング時に避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換する等、防災に対する共通認識に努めている。マニュアルや連絡網を整備し、スプリンクラーや自動通報装置の設置や、災害発生時の食料・飲料水、懐中電灯、ラジオ、ヘルメット等も整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけや対応はマニュアル化して職員共有事項としている。毎月行われる施設内研修の場を使って振り返りも行っている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護等については内部研修の実施で周知を図り、マニュアルも整備して実践に取り組んでいる。利用者の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。衣服の選択や余暇時間の過ごし方は利用者の意向を尊重し、起床や食事等の時間も利用者の意向を汲んで柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で本人の意思を尊重し、声掛け、見守り意思の表出へ支援している。難聴の入居者へは筆談などの工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床、食事等は所定の時刻を設定しているが、本人の体調や希望などに配慮し、変更できるなど、個人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類については介助の必要な入居者も希望を聞きながら更衣の介助を行っている。美容室やハンドセラピーの訪問も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを尋ね、希望に沿った献立になるよう配慮している。調理方法について入居者に助言を頂くこともある。	利用者毎の嗜好や摂取制限、形態等を把握し献立に反映させ、菜園の野菜等も活用して調理している。季節感のある食事や、外食、行事食、代替品の提供、園庭でのお茶など、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、職員も一緒に歓談しながら和やかに食事している。利用者毎に食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて一口大やミキサー食などを準備し、水分が不足しがちなときは飲み物を変えるなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状況を把握し、その能力に応じ声掛け、見守りまたは介助している。また、必要に応じて歯科往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意のない入居者には排泄間隔を把握し、適度な時間にトイレ案内し、おむつに頼らない排泄の自立支援に向けている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給、運動量等も把握しながら便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者毎に介護用品の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のバイタル測定時、また介助時に排便の状況を把握し、水分、食事量、薬の調整を行い、必要に応じて医師へ相談、対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴日を設定しているが、体調を崩すなどして入浴できなかった場合は入居者の希望に沿って柔軟に対応している。	利用者の健康状態を把握し、週2～3日の入浴や足浴等を支援しているが、失禁など必要に応じて清拭や入浴で清潔を保っている。入浴の時間や温度、好みのシャンプー、同性介助等は希望に添って柔軟に対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるように配慮している。入浴を渋る利用者には、時間の変更や声掛け等を工夫して、本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しながら、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援、声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が交付した服薬情報を手に取りやすい場所に保管し、いつでも薬の内容について確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や能力に合わせた個別レクリエーションを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力のもと、入居者の希望に沿った外出を実施している。その他にも季節を感じられるよう、外出行事の計画を立てている。	日常の関わりの中で利用者の外出への意向を把握し、天候や健康状態に配慮しながら希望に沿って散歩や買い物、一時帰宅、外食、墓参等の外出を、個別支援や家族と協力して取り組んでいる。また、季節の花見やソーメン流し、外食等、ホーム全員での外出も実施して、利用者のリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故防止の観点から、お金は職員が管理しているが、入居者に尋ねたうえ、希望の物を買に行ったり、買い物にでかけたりと、配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、施設の電話から電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールからは季節の花々が楽しめるように工夫している。照明や空調は入居者に合わせて調整している。	ホーム全体が明るく余裕ある広さが確保され、坪庭を囲むように居室等が設置されている。リビングには、テーブルセットやテレビ、ソファ等が利用者の動線や利便性を考慮して配置されており、周囲の景色や坪庭、利用者の作品、活け花、園庭の果樹等から四季が感じられ、和やかで落ち着いた雰囲気となっている。衛生管理や清掃、整頓等が徹底され、空調、異臭等にも細かに配慮して、気持ちよく過ごせる環境整備に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数人数で座れるソファを設置しているほか、テーブルには椅子も設置しているので一人でも過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品は持ち込み自由とし、家具の配置も本人、家族と相談している。	各居室は、余裕のある広さに腰高の出窓が設置され、明るく落ち着いた雰囲気、エアコン、ベッド、ダンス、洗面台が備えてある。利用者の心身の状況に配慮しながら整理整頓や清掃の支援に努め、安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。利用者は使い慣れた寝具や家族写真、遺影、小物等を持ち込み、また、自身の作品も飾って、その人らしい和やかで居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの廊下は車椅子や歩行器でも通れる幅にし、表示することでトイレ、浴室等をわかりやすくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない